

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071101473
法人名	のみやま有限会社
事業所名	グループホームおさ
所在地	福岡県南区日佐3-40-30 (電話) 092-588-5611

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 10月 31日
評価確定日	20年 12月 15日

【情報提供票より】 (平成20年 10月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 3月 15日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	19 人 常勤 6人, 非常勤 13人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての ~ 1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~38,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 350 円	
	夕食 500 円	おやつ 50 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年10月14日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のみやま内科医院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に大学と団地があり緑豊かで静かな環境に建てられた事業所である。周囲の住宅と違和感がないように配慮された外観は、花のプランターで飾られ温かみのある雰囲気である。「一緒にいる喜びを感じられる家庭」を理念に掲げ、利用者主体のサービス提供や地域交流を重視した支援を心がけ実践している。医療法人を母体にもち、医療との緊密な連携がとぎれなく行われ、重度化した利用者にとっても安心な環境である。歯科衛生士による口腔ケアや事業所独自に書式を工夫するなどの取り組みも行っている。入所前・退所後もきめ細かく関係機関と連携を図り、地域の中で継続して安心な生活ができるように努めている。利用者への個別レクリエーションや外出支援も積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果は職員会議で共有し、問題点を明確にして、改善に向けた取り組みを具体的に実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が各自実施し、管理者が集約している。職員会議で協議して、必要に応じて管理者が再度職員から意見聴取をするなど、職員全員で共有する仕組みがある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催している。会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況の報告や話し合いを行い、委員からの意見・要望等、サービス向上に活かしている。メンバーには利用者や家族の代表も参加し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の苦情や要望を積極的に聴き、全職員で共有して運営やケアに反映させる等、解決する仕組みを整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の敬老会や夏祭り等の行事に利用者・職員ともに参加している。また近隣の保育園や大学の行事へ参加し、中学校の教育学習の受け入れ等を積極的に行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念が地域交流を重視した「一緒にいる喜びを感じられる家庭」であり、職員は常に地域との関わりを意識しながら、利用者のケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を毎月の会議時に話し合い、理念の実践に向けて言葉かけ・態度などで日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の敬老会や夏祭り等の行事に利用者・職員ともに参加している。また近隣の保育園や大学の行事へ参加し、中学校の教育学習の受け入れ等を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員に配布し意見を聴取し管理者がまとめている。前回の外部評価では人権学習の取り組み、消防訓練時の地域住民の呼びかけが課題とされたが、区役所の出前講座を利用し家族会とともに人権学習に取り組む等の具体的な改善を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況の報告や話し合いを行い、委員からの意見・要望等、サービス向上に活かしている。メンバーには利用者や家族の代表も参加し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所便りを行政に持参したり、地域包括支援センター主催の研修会に参加し積極的に意見交換を行うなどの取り組みがある。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修には一部の職員が参加し、パンフレットや資料を常備している。家族等には家族会で説明している。内部研修も開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りを2カ月毎に発行している。利用者ごとに暮らしぶり・健康状態などを写真付の通信にして送付している。利用者ごとにアルバムを作成し家族に渡すなどの工夫もある。家族の来訪時や利用者の緊急時は必ず状況報告を行っている。金銭管理については、金銭出納帳のコピーを毎月送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催している。家族来訪時には意見や要望を聴くように声かけを行っている。職員の顔と名前がわからない等の家族の意見から、職員の顔写真付きの担当表を作成し掲示するなどの取り組みを行っている。第三者相談窓口については契約時や機会があるごとに説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑えるため、職員がプライベートも大切にできるような配慮を行っている。職員が代わる時は引継ぎの期間を考慮し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく適性や熱意を考慮している。出勤や異動等は職員の希望を可能な限り取り入れる等、安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する内部・外部研修を行っている。今年には出前講座を利用し、家族とともに職員全員で人権について学習するなどの工夫もある。研修時の資料や報告書も作成している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員のレベルや状況に応じた研修を受講できるように努めている。外部研修の内容については共有できるように会議で報告する仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協会に加入している。また地域包括支援センター主催のグループホーム連絡会に出席し、同業者と運営やサービスに関する共通の課題について意見交換を行う等、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には、見学・体験入所や職員による自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行うなど、徐々に事業所に馴染めるよう、家族と相談しながらサービスを実施している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除などを共に行い職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面がある。梅酒作り・浴衣の着付けなど利用者の得意分野では力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし学び支えあう関係を構築している。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を、利用者の言葉や表情、行動等から把握し、介護計画に反映させている。本人の希望や意向の把握が困難な場合は、家族から聴き取った生活史等を参考にする等の取り組みを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向・希望を尊重しながら、個別で具体的な介護計画を作成している。職員や家族の意見や気づきをその都度介護計画に反映させている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎、入居時や状態変化時はその都度、介護計画を見直している。事業所独自のモニタリング様式を作成し、きめ細かく介護計画の達成状況を把握している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際には定期的に病院訪問を行い、医療関係者や家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。本人や家族の状況に応じて、通院等は個別に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの受診経過や希望を把握している。希望する医療機関での受診だけでなく、事業所で協力医療機関も確保し、利用者及び家族があらゆる選択肢を可能にできるように支援している。家族と通院方法や情報の伝達方法について話し合い、了承を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期において、事業所が対応し得る支援について、入居時や必要時に家族に説明を行っている。家族・かかりつけ医・職員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては内部研修を行っている。利用者の誇りを損ねない対応については、ユニットによってばらつきが見られる。	○	本人の誇りやプライバシーを損なわないような言葉遣いや適切な対応を職員間で統一できるようにしてほしい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆるやかな1日の流れはあるが、起床や食事時間等、一人ひとりの状態や気持ちに配慮しながら、柔軟に対応している。レクリエーション等も全員参加ではなく、本人の希望を尊重しながら個別に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒に準備や食事、片付けを行っている。食事は同一テーブルで同じ内容の食事をしながら介助や見守りを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の体調や希望にあわせて柔軟に対応している。入浴拒否する利用者は、声かけを工夫し対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、ボタンつけや雑巾作りなどの裁縫、朗読、梅酒作り等、楽しみごとも含めて一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や食材の買い物を行っている。定期的な外食やドライブ等の企画も実施している。また個別レクリレーションの日を決め、利用者の希望に合わせて外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室・玄関ともに施錠していない。利用者の外出傾向を把握し、玄関に設置したチャイムや見守りで対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年に2回、避難訓練を行っている。非常用食料や備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量及び水分摂取量を、利用者ごとに記録し把握している。献立は医師が週2回程度検食し、アドバイスを受けている。貧血が改善した事例もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や職員が作成した絵や飾り物で彩り、ゆったりしたソファ等を配置して、居心地のよい雰囲気である。光の強さ等はカーテンで調節し、音の大きさにも配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた小筆筒、座イス、仏壇等を持ち込み、写真や人形等が飾られている。本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。